



かけ はし
懸 橋



今年も良い年であることを願い、初もうでに訪れる参拝者
(2009年元旦・氣比^{けひ}神社において)

もくじ

- ◆第4回定例会(20年12月議会) 2~3ページ
- ◆一般質問(6人) 4~9ページ
- ◆どうなったあの質問 10ページ

平成20年第4回定例会（12月5日～9日）

おいらせ町総合計画基本構想を可決

キャッチフレーズ「私たちのまち私たちの手で
満足度70%、納得度100%のまちづくり」



議事の進行を務める西館秀雄議長

平成二十年第四回定例会は、十二月五日から九日までの五日間の会期で開かれ、人権擁護委員の推薦、町総合計画基本構想の制定、条例の一部改正、平成二十年度一般会計及び特別会計の補正予算など、諮問二件、議案七件が上程され、審議の結果いずれも原案のとおり可決しました。

一般質問には、六人の議員が登壇し、町当局の所見を求めました。

主な議案の内容

◆人権擁護委員の候補者の推薦について

任期満了に伴い人権擁護委員の候補者として推薦するもの。

福井正美氏（一川目）

西館あい子氏（藤ヶ森）

◆おいらせ町総合計画基本構想の制定

町の総合的かつ計画的な行政運営を図るため、今後十年間のわが町の行政経営の指針とするもの。

○町の基本理念

- ① 住民・議会・行政が一体となったまちづくり
- ② 自然と共生し、文化がいまづくまちづくり
- ③ 幸せを実感できるまちづくり

○町の将来像

奥入瀬川の恵みと笑顔あふれるまち

○町のキャッチフレーズ

私たちのまち私たちの手で満足度70%、納得度100%のまちづくり

◆おいらせ町納税奨励条例の一部改正

平成二十年四月から六十五歳以上七十五歳未満の年金受給者を対象に、国民健康保険税の徴収方法が特別徴収となったことに伴い、納税奨励に係る改正を行うもの。

◆おいらせ町国民健康保険条例の一部改正

国民健康保険被保険者に対する出産育児一時金（現行三十五万円）に、町長が必要があると認めるときは、三万円を上限として加算するもの。



平成20年 第4回定例会

平成20年度 補正予算の概要 (20年12月補正)

(単位：千円)

会 計	補正前	補正額	補正後	補正の主なもの	
一 般	9,080,187	177,647	9,257,834	LGWANサービス提供機器更改工事費	4,383
				賦課徴収費（還付金及び還付加算金）	▲ 32,182
				障がい者扶助費給付費	11,304
				保育所運営費	34,147
				浄化槽設置整備費補助金	2,295
				道路橋りょう費（測量設計委託料）	3,912
				道路橋りょう費（町道整備工事費）	24,000
				八戸地域広域市町村圏事務組合消防費負担金	▲ 7,540
				防災行政無線放送施設整備工事費	110,654
				スポーツ少年団等大会出場補助金	836
国 保	2,693,726	25,887	2,719,613	一般被保険者療養費	1,652
				一般被保険者高額療養費	18,286
				国庫返還金	5,349
介護保険	1,570,663	62,760	1,633,423	居宅介護サービス等給付費	47,800
				介護予防サービス等給付費	12,450
				高額介護サービス等給付費	1,000
病院事業	1,097,190	22,230	1,119,420	給与費（看護師給）	1,483
				材料費（診療薬品）	8,000
				材料費（診療材料）	6,000
				器機備品等修繕費	2,000



阿光坊古墳群の現地説明を受ける委員

平成二十年十一月二十七日、総務文教常任委員会（成田隆委員長）を開催し、所管する史跡 阿光坊古墳群の現地調査と百石中学校の改築計画について調査を行いました。

町教育委員会の立ち会いのもと、史跡 阿光坊古墳群の保存整備用地として平成二十二年度までに買収予定の約十一ヘクタールの古墳群を現地調査しました。



所管する事項を審査する委員会

また、平成二十一年度着工予定の百石中学校校舎の改築計画について、町教育委員会から「安全・安心・丈夫な学校」など基本的な考え方と改築計画の概要説明を受けました。

委員からは、「エコスクール」としての特徴はなにか、「トイレは男女別に空間を設けて分離すべき」「校舎を二階建てにする構想はないか」「生徒の安全確保のため正門の位置を変更すべき」などの意見が出されました。

総務文教常任委員会を開催



西館 芳信 議員

親の国保税滞納のため、病院で保険を使えない子どもが県内一密集するおいらせ町、これでいいのか町長！

質問 新聞報道によると、見出しの状況にある子どもが、わが町では一〇八人いるという。これは弘前市の二〇七人に続き、県内一番目だが、人口比率では断然トップであり、八戸市や三沢市など、ゼロの市町村が十四も存在することを考えれば、あまりにも理解に苦しむ実態である。次の二点を問う。

① この実態を町長はどう考えているのか、所見を問う。

② この問題は子どもたちの権利、福祉と相反することになるが、これを打開するための良策推進の意気込みと実務上の知恵を問う。

答弁 各自治体により、中学生以下の子どもがいる滞納世帯への措置判断が違いますが、こうした実態を生んだと思う。

しかしながら、子どもが安心して必要な医療を受けられるようにしなければならぬので、新たに内規を設け資格証明書を交付された世帯の中学生以下の子どもについては、国の新指導方針に基づい

て本年、十二月下旬に、短期保険証を窓口交付し、新年一月から使用できるよう準備している。



子ども達の健やかな成長を願い
(これはイメージ写真です)

土地改良区の決済金に苦悩する農家を救済できないか、町長！

質問 決済金の種類、算定の仕方、これに関する農家の声など、担当課が把握している実態はどうか？

答弁 決済金の種類は、施設の維持管理費、国営事業や県営事業にかかる償還金と負担金または分担金、未納賦課金であり、その算定の仕方は、地区除外等処理規定にある決済金算定基準に基づき、種類ごとに計算し、算出している。

質問 農地の統分合を促し農地の集積が進むことは、国策の一環であり農地を処分した農家に、再出発しやすい下地を作り、改良区も助かるとしたら、適宜な決済金への補助政策等も悪くないと思つが、いかがか？

答弁 土地改良区によっては、各種事業を行い、決済金が十アール当たり十数万円になる

ところもあり、農家から地区除外したくても、決済金が高すぎてできないとの声があることは町も把握している。

最後の「農家の救済」だが、決済金に対して補助金をだすというのは現行制度上、難しい点があるので、土地改良区と協議しながら解決策を検討していきたい。



苦悩が続く水稻農家
(これはイメージ写真です)

一般質問



馬場正治 議員

百石漁港の供用開始に向けた町の取り組みは

質問① 現在建設中である百石漁港の供用開始時期について、これまでは平成二十一年四月予定とのことだったが、現在の見通しはどうか。

答弁 波浪等の影響や漁業調整に伴う工事の中断、港形の再確認、漂砂堆積についての再調査等により、一年遅れの平成二十二年四月供用開始予定となっております。

質問② 漁港の維持管理にかかる費用はどのようになるのか。

答弁 昭和二十七年に第一種漁港の指定を受けて以来、県が事業主体となり整備を進めてきましたが、漁港整備終了後三年をめどに、今後の管理について県と協議することになっていきます。

質問③ 漁港の整備に投じた費用は、過去の分も含めるといくらになるのか。

答弁 昭和四十三年度から平成二十二年までの最終的な事業費として、およそ四十三億一千三百八十万円の見込みとなっております。国が十分の五、県が十分の四、町が十分の一の負担となっております。

質問④ 漁港について全町民が関心と愛着をもてるよう、供用開始と同時に「おいらせ漁港」と改名する考えはないか。

答弁 漁業後継者の確保や新規漁業者の増加と併せて、漁港開港がairaせ町の発展、活性化の起爆剤になればと考えており、今後漁港の改名について漁協および関係者と協議したいと考えています。

質問⑤ 供用開始後の漁港や漁業に関する、観光産業も含めた新しい事業についての具体的なプランはあるのか。

答弁 現在、漁港関連施設整備検討委員会で施設の有効利用について検討中ですが、その中では土日型の朝市を開催して魚介類のほか地場の新鮮野菜や特産品を販売することや、漁港を利用したイベントの開催等いろいろな話が出ており、結論が出た段階で関係機関と協議したいと考えています。



遅れている百石漁港整備事業

白鳥餌付け自粛と今後の対策は

質問① 町では県の要請を受けて白鳥飛来地での餌付けを自粛しているが、間木堤は町を代表する観光地であり町民ならびに関連団体の落胆は大きい。今後、餌付けを再開する考えはあるのか。

答弁 白鳥を町の鳥と制定し、観光資源としている当町にとって大打撃ではありますが、青森県は今のところ自然のまま見守る方針なので、当町としてもマコモの植栽等自然のまま白鳥が飛来する方策を講じ、観光協会を主体とした対策会議を開催して観光客誘致に対応したいと考えています。

質問② 白鳥飛来地駐車場整備事業の総事業費は累計でいくらになるのか。

答弁 平成十三年度の用地取得から工事完了の今年度までの総事業費は二億五百八十七

万円余りとなっております。このうち電源交付金が一億九千五百五十五万八千円の見込みで、残り一千三十一万円余りが町の負担となります。

質問③ 餌付けをやめた後の間木堤の維持管理や駐車場の有効利用について、町長はどう考えているのか。

答弁 当面は県の指導に従いつつ、白鳥の飛来状況や餌付けなどの環境の変化を見ながら、駐車場等の施設の有効利用について、対策会議で検討し、取り組んでまいります。



餌付け自粛の看板と飛来した白鳥たち



沼端 務 議員

新年度の 予算編成方針は

質問 行財政計画と町総合計画の策定に当たり新年度の予算編成骨子と重点事業はなにか？

答弁 平成二十年度末の地方債残高は、一般会計で百二十九億二千万円、全会計では二百三十七億六千万円になる見込みで、新年度予算規模は九十五億四千万円程度になる見込みです。
重点事業は百石中学校校舎改築事業、木内々小学校グラウンド改修事業、防災行政無線放送施設整備、いちよつ公園体育館耐震化事業などを予定しています。



改築が計画されている百石中学校校舎

生活環境の 整備見通しは

質問 町道整備計画基本方針に沿って進める新年度の重点整備計画地区と県管理の国道、県道の整備見通しは？

答弁 新年度の重点整備計画地区は一川目地区側溝整備、豊栄地区道路改良工事、向山地区側溝整備の継続と木内々一号线改良舗装工事、青葉地区の古間木山三号线道路改良

工事などを予定しています。
県管理の国道、県道の整備見通しは、二川目地区の国道三三八号歩道整備工事、県道三沢・十和田線の木ノ下地区歩道整備工事、青葉地区の側溝整備工事などの予定です。

町民の健康を 守る施策は

質問 老朽化したおいらせ病院をリフォームし、快適性のある施設に改善することが急務と考える。その改善後の施設の概要と、厳しい医師確保の見通しは？

答弁 病院リフォーム後の施設概要は、霊安室の増築、待合ホールの改修、四床病室の二床病室化、面談室の設置、玄関、トイレ等の水回り改修とバリアフリー化、特に窓サッシをペアガラス化することによって、より快適になると考えています。

また、医師確保については現在、当院は五人の常勤医師が確保されているものの、医師標準数から見ると二〜三人の不足の状況にあり、今後とも医師確保に努めてまいります。

質問 一人でいつでもどこでも実践でき、健康増進と医療費削減に効果的なウォーキングの普及を町民に拡大し、支援してはどうか。

近い将来「ウォーキングの町」を宣言する考えはないか？

答弁 町民だれもがスポーツに親しみ健康づくりに取り組む一つの手段としてウォーキングを取り入れることは、有効な手段であります。今後、町内ウォーキング団体と連携し、新ウォーキングマップの作成に努めてまいります。
「ウォーキングの町」宣言については、町民の機運の高まりを確かめつつ検討してまいります。



リフォームを実施するおいらせ病院

一般質問



成田 隆 議員

阿光坊団地の跡地利用計画は

質問 阿光坊団地は今年八月住宅が解体され更地となっているが、その跡地の利用計画はあるか。

展望所として残すことを提案するが、その考えはあるか。

答弁 阿光坊団地の敷地面積は二千八百平方メートルであるが、跡地の利用計画は白紙の状態であります。

展望所として残すことへの提案については、当団地からの八甲田連峰は素晴らしい風景であり、財政状況を勘案し政策会議および庁議で協議してまいります。



跡地利用が検討される阿光坊団地

本村バイパス整備の動向は

質問 三本木バイパスを延長して奥入瀬川南岸土地改良区を管理している本村前の農道を経由して六戸町の赤田・長谷線に接続することにより利用価値が上がると思うが県に要望する考えはないか。

仮にバイパスの整備が可能であれば南岸土地改良区管轄地で唯一、基盤整備がなされていない小前谷地地区を基盤

整備に向けた取り組みの準備も考えなければ思っている。それにより農家、地区住民、町や県、みんなが恩恵を受けられると思うが、その考えを問う。

答弁 県に問い合わせたところ道路単独での整備は非常に難しいとのことでありませう。

しかし基盤整備と組み合わせるの道路整備の可能性はありますが、仮に整備するにしても町の負担も見込まれるので整備手法等は各関係機関と十分協議、検討し、総合的に判断をしたいと考えています。



整備が望まれる「本村バイパス」
(前方が三本木バイパスから望む本村地区)

新たな税源対策について

質問 我が町には景観を損ねる携帯電話の無線塔、高速道路、新幹線の高架橋、山砂採取跡地等々、多数の物件が存在している。そのような物件に法定外目的税（景観税）を新設して税収の増加につながる考えはあるか。

また、風力発電や太陽光発電など自然エネルギーを利用した発電施設を誘致して、固定資産税の増加を図るべきと思うが、法令の整備、立地調査の考えはないか。

答弁 景観税とは良好な景観を保全あるいは形成するため必要な経費を税とし納税していただくことと推察しています。そこで法定外目的税として条例制定することは可能でありませう。

しかし、当町の現状

は著名な景勝地、観光地と言えないので現時点では困難と考えております。

奥入瀬川周辺の田園風景や八甲田の山並み、太平洋の眺望など大切にしてほしい景観であり、できることから景観対策を実施してまいります。

また、自然エネルギーについては、枯渇の心配がなく再生可能なエネルギーであり、二酸化炭素の排出もなく、将来に向けて化石燃料に頼らないエネルギーとして地球環境にも貢献するものと考えられます。

そして自然エネルギー利用施設を誘致すれば、固定資産税の増加につながる可能性があります。

しかし、太陽光や風力は日照量や平均風力など自然条件が大切であります。当町の条件は必ずしも良いとは言えない数値となっております。以上のことから現状では厳しい状況であり、今後の検討課題とさせていただきます。

一般質問



吉田 絹恵 議員

ふるさと納税は？

質問 ふるさと納税の取り組み、現状について問う。

答弁 本年4月三十日に公布された地方税法等の一部改正により、寄附金控除の拡大が図られた「ふるさと納税」制度が創設。この制度はふるさとに貢献、応援したいと納税者の思いを寄付という形で表すことができるもので、寄付のうち五千円を超える金額が税控除の対象となり翌年の確定申告手続きにより

①寄付した翌年の住民税が軽減される。
②その年の所得税が一部還付される。ただし、住民税所得割額の一割が限度である。

取り組みは広報紙、ホームページ、チラシを配布。十一月現在、県外十三名、県内四名。寄付の申し出金額は百九十四万二千九百九十円。寄附金の使途は

- ①人材育成
- ②自然環境保全
- ③コミュニティ活動推進
- ④おいらせブランドの普及、推進
- ⑤指定のない時は町が決定

地域ブランドの内容は？

質問 地域ブランドの確立に向けての進捗状況について問う。

答弁 本年六月おいらせブランド推進協議会設立。

メンバーは個人経営者、農業者、農業団体、水産業者、加工業者、商店主、旅行業者、三十六名。協議会は、おいらせイメージアップ部会、特産品パワーアップ部会、観光交流レベルアップ部会の三部会で編成。ブランドプロデューサーとしてコンサルタントを委託した上で役場の関係課と町商工会事務局との共同事務



「アグリのリおいらせ」でイチゴをほおぼる子ども達

局の体制。

おいらせイメージアップ部会はブランドポータルサイトの運営とブランドシンボルデザインの策定。

特産品パワーアップ部会ではおいらせブランド認定制度の制定。

観光交流レベルアップ部会では、アグリ・ツーリズムのモニター・ツアー企画を進めている。

商工団体が事業主体となつて国からの直接補助事業の採択を受け、勉強会、調査、研究活動を進めている。認定された商品については販路拡大や商品開発を支援するプログラムを用意することを構想。

ゴミの減量対策は？

質問 ゴミ減量対策の取り組みについて問う。

答弁 ゴミの総量は平成十八年度八千二百六十トン、平成十九年度七千九百五十トンと二百五十六トン少なくなっている。対策として

- ① 町内ごとに廃棄物減量等推進員百二十名を委嘱、五百二十七カ所のゴミ収集ステーションの管理指導。
- ② 年間三十二日以内で、定期的に不法投棄等の監視パ

トロールに当たる環境美化指導員として四名委嘱。

- ③ 年間二十四日以上定期的に奥入瀬河川敷を巡回パトロールに当たる指導隊員四名委嘱。
- ④ 町内会や子ども会が行う廃品回収に対し資源集回回収奨励金を交付。
- ⑤ 不法投棄等の防止のため、各種看板の設置や土地所有者または管理者へ適正管理、防止策を指導、広報を通しゴミ出しのマナー、減量の方法などについて住民の意識高揚を図る。
- ⑥ 「いきいきランラン美化大賞」を設ける。



廃品回収をしている保護者

一般質問



佐々木 光雄 議員

地場産業振興 対策について

質問 おいらせタウンプロモーション事業の内容と推移について伺う。

答弁 おいらせタウンプロモーション事業はブランド戦略の実践をするため、①コンサルタントのプロデュースによる戦略実行支援委託 ②おいらせブランドを象徴し、印象づけるためのブランド・シンボルデザインの策定 ③おいらせ町として初めての首都圏プロモーションの展開。など、おいらせブランド推進協議会を組織し、協議、調整を図りながら進めています。



J A・ももいし野菜センターの長いも洗浄選別作業

国保税について

質問 十一月の「無保険の子ども、地域差 報道」について、町長の見解を問う。

答弁 法令の解釈や各自治体間の措置判断において、中学生以下の子どもがいる滞納世帯への資格証明書の交付に差が出ており、この実態について児童福祉の観点から重要な問題として認識しています。この救済策として、中学生以下の子どものいる世帯へ平成二十一年一月から使用できるよう万全を期します。

教育行政について

質問 中学生の国際交流事業は、来年度も続けるのか。どのような教育効果があるか。

答弁 国際交流事業は、おいらせ町、六戸町の二町で組織し、平成五年に始まっていきます。本事業は交流を通して、国際理解や郷土理解を図り、国際化時代に対応できる広い視野を持ち、行動力豊かな生徒を育成することです。

アメリカ合衆国キタリー町との協議のもと来年度も事業を進めます。

質問 我が町には外国人が一千二百人ほどいると聞いていますが、地域間交流はどうなっているか。

答弁 米軍人など町居住者数は一千百六人で、米軍関係者以外の外国人は百六十人です。地域間交流はアメリカンスクールソラズ小学校との交流学習会、中学校はスポーツ交流が行われ、社会教育面では外国人講師による外国の料理教室など開講しています。

質問 スケートの町をキャッチフレーズとしている我が町の今後の取り組みは。

答弁 百石中学校、下田中学校が全国大会制覇と当町中学校の名を全国に知らしめてきました。しかし、近年は天然リンクの氷結が不可能になり、スケートができなくなりまし。今後は、スケート競技人口の拡大のため、スケート協会を中心に小・中連携の選手育成を図ってまいります。

行財政改革について

質問 合併時に職員を十六人減らす計画だったが、来年度の新採用は何人か。退職者は何人か。

答弁 本年度をもって退職する職員は七人です。来年四月採用予定者は四人です。

質問 管理制度移行後のバスの保有台数は。

答弁 スクールバスが二台、スポーツ車が一台です。町が主催する事業や公共団

体が利用するバスは、今年度よりバス借上げで対応しています。

質問 イベントの見直しについて、百石まつり、下田まつりを一本化してはどうか。

答弁 現在、行われているイベントの実状と今後の展望を見据えながら、行財政改革の視点でも検討してまいります。

福祉行政について

質問 老健施設への入所希望者が、なかなか入れない現状を見ると、施設設置者が増床を申請すれば、町では許可する考えがあるか。

答弁 入所待機者は介護老人福祉施設が二十六名、介護老人保健施設が一名となっております。施設の増床については、入所定員変更にかかると、県知事の許可を受けることとなります。

第四次介護保険事業計画の中で施設整備の必要性について協議してまいります。

どうなった あの質問

質問 子供たちの安全確保のため、木ノ下児童館から鶉久保方面までの通学路の歩道の確保、整備が急務ではないのか。

答弁 延長550メートルの歩道整備には相当の事業予算が必要となる。全体計画の中で緊急度、優先度等を照らし合わせ検討する。

経過 歩道の確保には至っていないが、^{ふた}蓋なし側溝から蓋つき側溝に整備が進められています。歩道の整備は今後の検討課題となっています。

これまで定例会で行われている一般質問の中から、その後どうなったか追跡調査してみました。
今回は平成十七年六月議会で議員が質問した通学路の歩道整備について経過を調査しました。



着工前の側溝（鶉久保地区）



完成後の側溝



断水により給水を受ける住民

何年ぶりの初日の出にかすかな期待をもち、今年はいい年になるだろうと思っただけではないでしょう。
元日も無事にすぎし、二日目、暮れからの疲れにうたた寝をしているところに断水になるとハッキリした情報を受けたのが知人からの電話。これは大変と風呂に水をため、あらゆる容器に水を確保。しかし近所の人に声をかけたら情報はしつかり伝わっていない。
年始めから大変貴重な体験をした。日頃からの備えがいかに大事か。情報の確認、隣近所との連携等々危機管理の大事さを再確認。二〇〇九年、市民の皆様幸せを願い議会として役割を強く感じたスタートになりました。今回の経験を無駄にすることなく検証、反省をすべしでしょう。
本年もよろしく願ひ致します。
議会広報編集委員長 吉田 絹恵記

編集後記